

都中道研

第一三三三号



会長 木村知広 (板橋区立赤塚第二中学校長)

日頃より、東京都中学校道德教育研究会の活動にご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。

東京都中学校道德教育研究会の第四代会長を仰せつかりました板橋区立赤塚第二中学校長の木村知広と申します。よろしくお願い致します。

昭和三十三年に本会がスタートして六十七年間、東京都中学校道德教育研究会が組織として持続してこられたのも、歴代会長をはじめ、尽力されてきた会員の皆様の研究の積み重ねがあったからだ、改めて感謝申し上げます。

さて、将来の変化を予測するところが困難な時代を迎え、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出すことが重要であることから、道德教育はこれまで以上に重要な役割を果たすことが期待されています。そこで、令和七年度の研究テーマは昨年度から継続し、「人間としての生き方について考えを深める道德科の指導の工夫」とし、新たな副題として、「補い・深め・発展させることを留意した取組の充実」を設定しました。道德教育の

「要」となる道德科の位置づけを明確にし、道德教育をどのように充実させていくかを整理してまいります。

今年度の活動については、第五回全日本中学校道德教育研究大会岐阜大会、第五四回関東甲信越中学校道德教育研究大会山梨大会、令和七年度東京都中学校道德教育研究会研究発表大会、令和八年度東京都で開催する第六十回全日本中学校道德教育研究大会及び第五五回関東甲信越中学校道德教育研究大会での発表に向けた研究活動・準備を主として活動してまいります。さらに、全公立中学校対象の道德教育推進状況アンケートの実施と集約分析などにも取り組んでまいります。

令和七年度は、これまでの研究成果を踏まえるとともに、来年の大会に向けた準備も加速させていくことが重要です。そのためにも、さらに多くの会員を募り、東京都中学校道德教育研究会という組織を盤石なものにしていく必要があると考えています。

「先を見据えつつ、研究をしつかり固める」ことをスローガンに令和七年度を進めてまいりますので、よろしく願います。

令和七年度研究部活動計画

研究部長 池田 和幸

(杉並区立天沼中学校長)

研究部会開催日時と主な内容

第一回 五月八日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
会長挨拶、参加者自己紹介、令和六年度研究主題、組織、岐阜大会山梨大会確認他

第二回 五月二十九日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
岐阜大会・山梨大会提案検討

第三回 六月十九日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
岐阜大会・山梨大会発表原稿検討

第四回 七月十七日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
岐阜大会・山梨大会発表原稿検討

第五回 七月三十一日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
岐阜大会山梨大会発表原稿検討・グループ研究

第六回 九月十八日(木)

岐阜大会発表原稿修正・グループ研究

第七回 十月十六日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
岐阜全国大会発表原稿最終確認、研究発表大会授業者選出

第八回 十一月二十日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
研究発表大会公開授業指導案検討

第九回 十二月六日(土)

会場 杉並区立天沼中学校
研究発表大会公開授業指導案検討

第十回 十二月十八日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
研究発表大会指導案検討

第十一回 一月二十二日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
研究発表大会指導案検討

第十二回 二月七日(土)

会場 国分寺市立第四中学校
研究発表大会リハール

令和七年度研究発表大会

二月十日(火) 午後一時三十分
【会場】 国分寺市立第四中学校

第十三回 三月十二日(木)

会場 杉並区立天沼中学校
研究発表大会反省

事務局だより

事務局長 門脇 利種

(小金井市立小金井第一中学校長)

一 総会・研修会

令和七年六月十七日(火)に、セシオン杉並で実施しました。今回もハイブリット型での開催をニューノーマルとして継続していきます。会場参加とオンライン参加を合わせて約五〇名の皆様にご参加いただき感謝しておりますご理解、ご協力ありがとうございました。

(一) 総会について

月田 行俊 会長のあいさつに続き、来賓の東京都教職員研修センター教育開発課塚原 雄太 様にごあいさつをいただきました。続いて、令和六年度の活動報告、決算報告、会計監査報告についてご説明し、ご承認いただきました。



また、令和七年度の会長及び役員への推薦についてもご承認いただきました。会長は木村 知広(板橋区立赤塚第二中学校長)が承認されました。そして、相談役・顧問の推挙、活動計画案、予算案についてもご承認いただきました。

(二) 研修会について

国立教育政策研究所課程調査官 大平 剛生 様を講師にお招きし「道德教育の一層の充実に向けて」を演題に、ご講演いただきました。「令和の日本型教育」を手がかりにして、「発問の重要性」「ICT端末の活用」「学習指導要領の改訂」についてお話しいただきました。これまでの学習指導要領で示されている内容を土台に、これらの道德教育を充実させるためのご指導、ご助言をたくさんお示しいただきました。

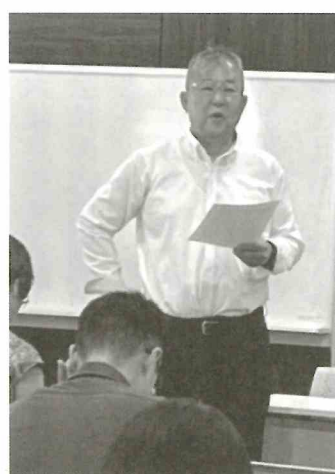


二 第一回部員総会・研修会

令和七年八月十九日(火)にセシオン杉並で実施いたしました。たくさんの方にご参加いただき、感謝しております。ご理解、ご協力、ありがとうございました。

(一) 部員総会について

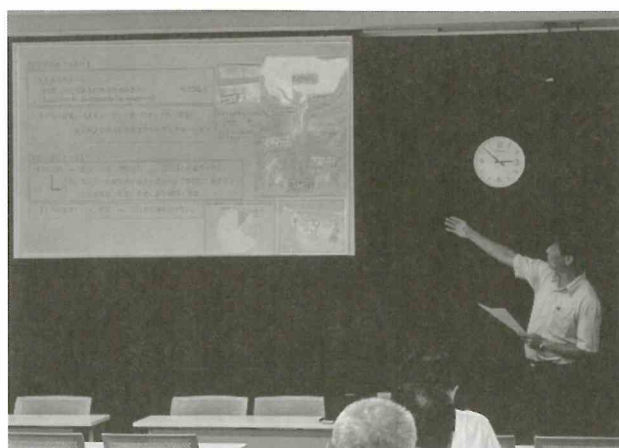
木村 知広 会長のあいさつに続き、来賓の麗澤大学大学院学校教育研究科道德教育専攻 教授 鈴木 明雄 様にごあいさつをいただきました。各部からは、滞りなく計画に沿って活動をしているとの報告がありました。研究部からの報告は、研修会で行いました。



(二) 研修会

池田 和幸 研究部長(杉並区立天沼中学校校長)より、研究部の活動について、報告がありました。続いて研究部員による、研究の報告がありました。

第五十九回全日本中学校道德教育研究大会岐阜大会での発表者である松村 孝幸 研究部員(多摩市立多摩永山中学校)からは、大会主題「自他ともによりよい生き方を求め、実践する生徒を育てる道德教育はどうあるべきか」を受け「道德科と他の教育活動との関連」について研究報告がありました。



次に、第五十四回関東甲信越中学道德教育研究大会山梨大会での発表者である金子 太翼 研究部員(杉並区立泉南中学校)からは、大会主題「多様化、個別化する社会の中で、ともに考え、よりよく

生きる力を育む道德教育」を受け、「ウエルビーイングを旨とした道德の授業」について研究報告がありました。



研究報告についての指導・講話として、東京都中学校道德研究会顧問、賞雅 技子 先生を講師に招き、ご指導、ご講評をいただきました。また、賞雅先生には「道德科の課題とその改善の方向性」を演題にご講話いただきました。

(講話の一部を紹介します)

文部科学省が令和三年に行った全国調査では、道德教育の充実に向けて「教師の指導力」や「学校

管理職のマネジメント」が課題として挙げられています。道德も他教科と同様に、実施計画に沿って確実に行うこと、そしてローテーション授業の意義を理解したうえで取り組むことが求められます。

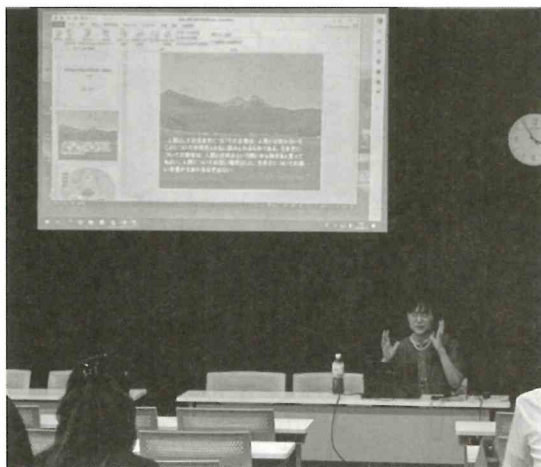


また、校長や管理職の授業参加については、すでに教科化前の指導要領にも明記されていました。

では、生徒に「考えを深めさせる」とはどういうことか。問いかけにすぐ答えられず、生徒が黙り込むことがありますよね。実は、その沈黙こそ、考えの始まりなのです。悩みながら向き合う時間を大切にしたいのです。たとえば教材「泣いた赤おに」では、青鬼はなぜ去ったのか、赤鬼はなぜ泣いたのか——こうした問いを投げかけると、生徒が自分の経験に

重ねて語り出すことがあります。その瞬間、学びは自分事となり、深まっていくのです。

話し合い活動についても触れておきたいと思います。多くの先生方が五分程度の時間設定で行っていますが、それでは短いのです。一〇分以上かけてじっくり取り組ませてください。話し合いはトレーニングです。結論を急ぐ必要はありません。問いを絞り、互いの意見を聞き合いながら、考えを広げていく過程こそが価値を持つのです。



道德の時間は、教師が一方的に話す場ではありません。子どもにとって「面白い時間」であることが大切です。「先生の話はちょっと

と変だけど、考えてみたくなる」と思ってもらえるような授業であってほしいのです。そのためには、教師自身が学習指導要領を繰り返し開き、自分の理解を深めていくことが欠かせません。

さらに、教育振興基本計画に示されている「日本社会に根差したウエルビーイング」にも目を向けてほしいのです。共同性や利他性、多様性の理解、そして社会貢献といった価値は、まさに道德科で育てていくべきものです。道德は単なる一つの授業ではなく、生徒が自分の生き方を問い直し、よりよく生きようとする力を育む場なのです。

以上のような講話をいただきました。

三 今後の研修会等について

各学校に案内を送付します。また、本研究会のホームページでもご案内いたします。ふるってご参加ください。

(一) 第二回部員総会・研修会

令和八年一月十六日(金)

会場 調整中

(二) 研究発表大会

令和八年二月十日(火)

会場 国分寺市立第四中学校

研究部より

研究部長 池田 和幸

(杉並区立天沼中学校長)

【研究主題】

「人間としての生き方についての考えを深める道德科の指導の工夫」
 ～補い・深め・発展させることを留意した取組の充実～

【主題設定の理由】

(一) 昨年度の取組の成果

令和六年度は主な成果として、全国大会の発表において、道德科の学習評価を活用し、授業改善に取り組んでいくことは、生徒の授業に対する意欲を高め、道德的価値について考えを深め、人間としての生き方について考えていくこととする生徒を育てていくことにつながることが分かった。

研究大会当日の公開授業では、良い教材がもっている力の大切さを改めて浮き彫りにした。研究発表大会で用いた教材は、主人公は自分の生き方を改めようとする部分が描かれている。思い悩む主人公の姿に生徒は自らの姿を重ねることができ、それが生徒にとって人間としての生き方について深く

考える入り口となる。

また、生徒に深く考えさせるためには、問いが大切であり、教師がどんな問いをもって授業を行うかで、その後の問い返しや考えを深める補助発問など、生徒の考えを深めさせる問いを準備しておくことの大切さが明らかとなった。

教材の改変や差し替えを行うことについて安易に捉えてはならないが、一時間で使う教材として適切な長さか、教材で用いられている表現が適切かなど、使用する教材が授業での使用に適しているかどうか、ねらいとする内容について深く考えることができる教材なのかについて検証することは大切なことであり、教員の授業前の教材研究の重要性が改めて示すことができた。

(二) 課題

教科書が用いられるようになって四年が経過している。教科書に掲載されている教材を用いて授業することが当たり前となった。研究発表大会の井上調査官の講話にあったように、自分の学校の実態や教育目標などに応じて適切な教材を選び使用することは、自校の

道德教育の充実のためには欠かさない。教員の授業力の底上げとともに、教科書に掲載されていない良い教材の開発や発掘も大きな課題として浮き彫りになった。人間としての生き方を考える道德科の本質をもう一度見つめなおし、生徒が人間としての生き方について深く考えることができる授業づくりのために、質の良い教材と生徒に考えさせる発問を工夫していくことが今後の課題である。

また、今年度はアンケート調査の回答率が下がってしまったことも課題である。アンケート調査の回答率を上げていくための工夫をしていく必要がある。

(三) 本年度の研究主題

今年度のテーマは、「人間としての生き方についての考えを深める道德科の指導の工夫」～補い・深め・発展させることを留意した取組の充実～として、「人間としての生き方についての考えを深める」という道德科の目標と向き合い、それを達成するための指導の工夫について、さらに一歩進めて研究を進めていく。そして副題として補い・深め・発展させること

を留意した取組の充実とすることで、道德教育の「要」となる道德科の位置づけを明確にし、道德科の授業のみならず、教育活動の全てを通して実施する道德教育との関わりの中で、効果的な指導の在り方について検証し、意図的、計画的、発展的に道德教育を充実させていくことができるのか整理していきたいと考えている。

編集後記

日頃より、都中道研の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

この度、広報第一三三号をお届けいたします。今後も、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

広報部

部長 佐藤 正敏

(足立区立蒲原中学校副校長)
 副部長 高橋 優子
 (国分寺市立第四中学校副校長)

都中道のホームページ

<https://www3.scho-olweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350004>

